

都市に住もう楽しみが一番感じられる場所は、もしかしたら自分のベッドルームかもしれない。

都心の住宅地は日が落ちてしばらくしてからポソポソと明かりが灯り、夜更けまで明るい。その中に浮いている自分の部屋と兄弟の部屋、そして隣の家の部屋。それらの小さな世界が屋根越しに交わる瞬間がある。みんなで住む家だけれど、それぞれの居場所はその奥に押し込められるわけではない。むしろ一番都市と近い位置にある。

個が社会へつながる現代に合った住宅の型式を考えた。



#### コンセプトダイアグラム



通常、画一的に仕切られた部屋に生活は押し込められている

各々の生活に自立した空間を持たせる

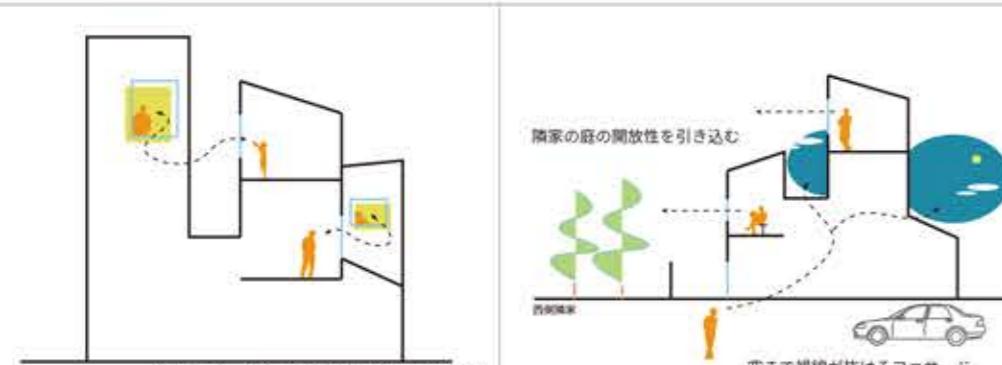
様々な表情を浮かべた生活が家中に広がる

都市では、家々が様々な表情を浮かべ、建ち並んでいる



都市の心地よさを内包した住宅はやがて、都市に溢れる表情の一員として、街並みに参加していく

#### 設計ダイアグラム



近く近く、それぞれの生活が家の中に浮かぶ

隣家の庭の開放性を引き込む

空まで視線が抜けるファサード



隅切部に生まれた三角コーナーは、玄関とも待ち合わせ場所とも前庭もとれる

街の様々な活動が

出合い、混ざり、去っていく場所として設計する

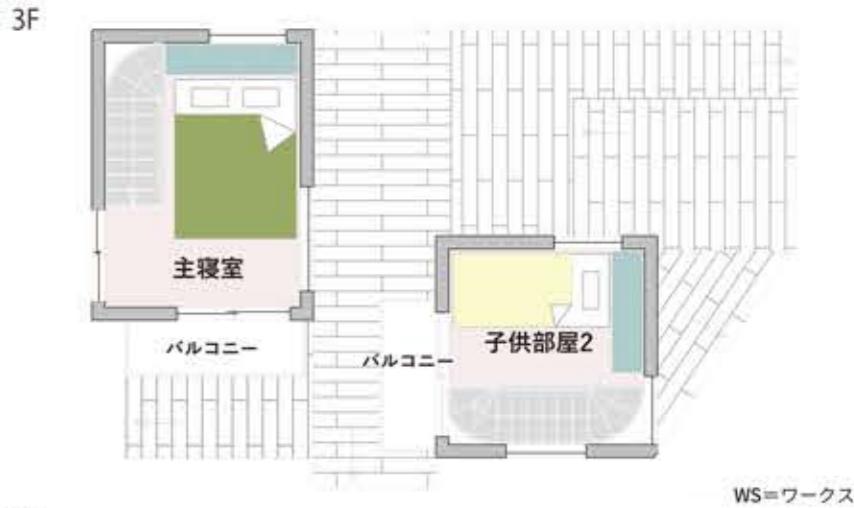
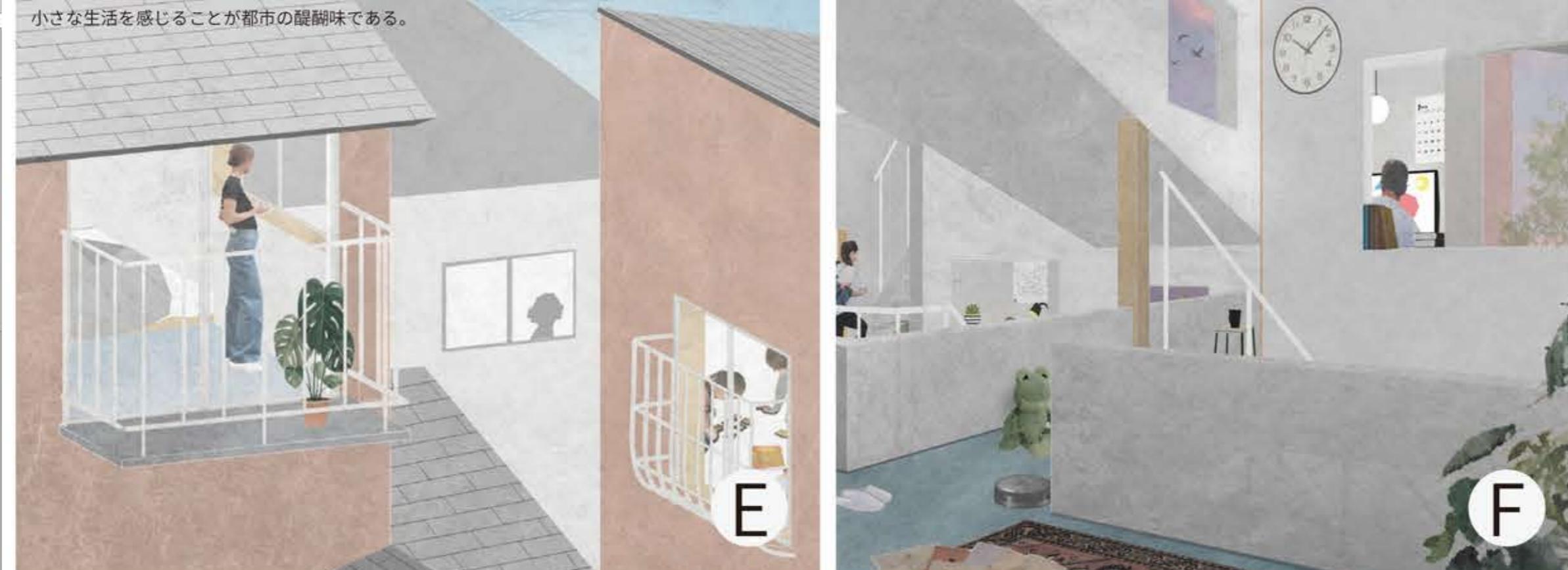
# 都市に浮かぶ —小さな個が都市へつながる家—



屋根越しにある家族の気配。同じような距離感で隣家の窓や、その先の窓の向こうにも

小さな生活を感じることが都市の醍醐味である。

個々のワークスペースが程よい距離を持って、ダイニング・くつろぎスペースの上に浮かぶ。



#### 平面計画

##### ●3つの出入口

この家には入り口が3つある。1つ目は角地の隅切部からアプローチする屋根上の玄関。屋外階段によって街に一番近い場所から、家の隙間に入り込む。その左手にあるもう1つの入り口は子供部屋に直接出入りできる子供たちのための玄関。3つ目はダイニング横の勝手口。食料品の買い物から帰ってきた時や、ダイニングに直接友人を呼ぶときにはこちらを使うかもしれない。家族は3つの玄関から気兼ねなく家を入りし、自由に家と街を往来する。

##### ●寝室とワークスペース

最上階のプライベート性の高い寝室は、大きな開口やベランダから住宅地の屋根レベルで都市へと視覚的に繋がっている。また個の生活はそこに留まらず2階のセミプライベートなワークスペースに接続している。ワークスペース同士は家中でも、屋根越しに見える家のように、程よい距離を持ちながら浮かんでいる。

##### ●家族の集まる場所

1階に家族のダイニングキッチンとリビングがある。ここは一番都市から距離をとった場所である。水回りの壁以外は間仕切り壁を用いず、行き止まりのない広がりを確保しながらも、開口の位置を高くして視覚的に都市との距離をとり、喧騒から離れた落ち着いた地階のような空間をつくっている。

面積表	
1階	44.54 m <sup>2</sup>
2階	35.60 m <sup>2</sup>
3階	17.45 m <sup>2</sup>
延床面積	97.59 m <sup>2</sup> (129%)
建築面積	44.54 m <sup>2</sup> (59%)